

重森 元子さん（広島県広島市安佐南区出身）

JICA 草の根技術協力事業

案件名：IT 農業イノベーションによる新産業の創出

実施団体：有限会社 上野園芸（広島市）

派遣国：モルディブ

2017年5月28日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

水耕栽培の技術を普及

モルディブは平均海拔1.8 ㍎のサンゴからなる島国だ。塩害により農業には不向きな環境であり、野菜を食べる習慣があまりない。外国人が使うホテルなどではそのために野菜を輸入するほどである。

私が国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業（地域経済活性化特別枠）として、現地で水耕栽培の普及活動をするようになったのは

2009年9月、上野園芸（広島市安佐南区）も出展していた東京での展示会で、同国の前駐日大使から、モルディブでの農業の可能性について打診されたことがきっかけだった。そして14年から3年間、現地の非政府組織（NGO）と連携し、水耕栽培の指導、野菜食の普及活動に取り組むことになった。

学校、病院、警察署など公共施設へ太陽光発電による水耕栽培装置（空宙プランター）を設置。住民に栽培を経験してもらった。このことは栽培技術の向上とともに、地域コミュニティーの結束という一面も担っている。学校では生徒たちがレタスを使ったサラダ作りにも挑戦した。

また、現地では水道インフラが整備されておらず、飲料用のペットボトルが大量廃棄され環境問題を引き起こしている。ペットボトルを再利用して野菜を栽培し食べる活動を普及させるため、現地 NGO と共同で学校教材「空宙プランペット」を開発した。

事業終了後、この活動は現地 NGO に引き継がれた。学校から保護者たちも巻き込み、モルディブ全土への普及を目指している。



ペットボトルを再利用した野菜作りについて学ぶ現地の人たち